

学習指導センターだより

第6号〔令和8年8月27日（木）〕

☎949-6680 南魚沼市六日町 865 南魚沼市民会館2F 南魚沼市学習指導センター

☎:025(773)6702 Fax:025(773)6703 Eメール:mgakusen@minamiuonuma.ed.jp

ホームページ URL: <https://www.minamiuonuma.ed.jp/1570003> **南魚沼市学習指導センター**で検索



わからないことがだめじゃない だめなことは、わかることをあきらめること

児童生徒が主体的に学ぶことは、多くの学校で目標として取り組んでいる事項であると思います。しかし、教師が主体的にと考えた仕組みを、児童生徒に与えていることもあると思います。そのような中、先日、教育専門情報誌「内外教育」で京都市立向島東中学校の取組が紹介されていました。向島東中学校の取組は、生徒が主体的に学びへ向かう取組です。その一部を紹介いたします。

この取組の合い言葉は「わからないことがだめじゃない。だめなことは、わかることをあきらめること。」です。この言葉から、学校全体の学びへの強い意欲と信念がうかがえます。そして、それを実現するための取組が紹介されていました。その中に、「学び合いの作法」がありました。

【学び合いの作法】

- ① 聞く・聴く・訊（き）くを徹底しよう
- ② 訊かれたときは、相手が納得するまで説明を繰り返そう
- ③ 説明を聴いた後は反応しよう（拍手、相づち、質問）
- ④ 1分ルールを守ろう（わからなそうにしている友達に1分以内に声をかける）
- ⑤ さらに、魔法の言葉「わからへん。教えて。」を使う

向島東中学校では、生徒会を中心とした3年生が「学び合いの作法」を新入生に伝授しています。部活動の伝統が引き継がれるように、学び方も生徒主導で伝承されています。教師が生徒に指導するのではなく、生徒が主体となって取り組む伝統が根付いています。この精神が授業や部活の中で息づいて、学びをあきらめない環境づくりとなっています。

その他にも、授業改善では対話を生み出す六つの授業フレーム、複数担任制、空き教室を活用した自習室「学びの聖地」の整備、などに取り組んでいます。これらの取組から、学校が安心して学べる場となり、「生徒が分からないこと、できないことを言える、聞ける場」になっています。

学校は「学ぶところ」ということを強く意識したこれらの取組は、主体的に学べる児童生徒の育成に大きく役立つものであると感じました。

（文責 山本 哲夫）

子どもと ICT 機器の関わりを見つめ直す

7月29日（水）センター主催の「情報モラル教育研修」が行われました。今年度は塩沢中学校教頭 樋口 雅樹 様を講師にお招きし「GIGA ワークブック」を取り入れた情報モラル実践について学びを深めました。GIGA ワークブックとは、子どもたちがデジタル社会を安心して生きるために欠かせない「情報モラル」と「情報活用力」を育む情報リテラシー総合教材です。こうした教材を使うことによって、担任の先生方が情報モラルの実践を試みるができます。

本研修では、これまでの教え込む指導から脱却し、子ども自身が主体的に考え、自立して端末を使いこなす力を育んでいくことの重要性について学びました。講師の樋口先生は、端末利用における「ルール」と「モラル」を明確に分けて指導することが重要であるとおっしゃっていました。



ルール	職員が一丸となって取り組み、子どもに徹底すること。ガイドラインなどには子どもが順守すべき内容として示す。（SNS や生成 AI の年齢制限など）
モラル	日々の生活や授業の中で、子どもたち自身が考えながら、主体的に育んでいくもの。（インターネット上の情報の取り扱いなど）

教師だけではなく、子ども自身も「ルール」と「モラル」の違いを感じ取り、課題を自分事としていくことで、ICT 機器との関わり方が適切になっていくのだと考えます。

本研修に参加した先生方からは、以下のような感想をいただきました。

『全体で徹底するルール』と『子どもと共に考えるモラル』を分けて捉えるという視点は大きな発見でした。保護者向けの具体的なルール作りの資料なども活用し、学校と家庭が連携しながら、子どもの情報活用能力を育てていきたいです。

情報モラルの育成はいかにして子どもたちに自分事として捉えさせ、指導していくかが大切。実際の事例を紹介するだけでなく、『この場面なら自分はどうか』を考えさせ、多様な人と意見を交換することで、感じ方や捉え方の違いを認識させる経験が必要だと感じました。

GIGA ワークブックを使った実践を自身が体験することで、児童への指導や校内研修でも有効に活用できると感じました。順序もなく、15分の短い時間でも活用できるので、実際に使ってみようと思いました。

ICT 機器が日常化する中、子どもがトラブルに巻き込まれず、安全かつ効果的に使いこなす能力をどう育むかは、学校にとって大きな課題です。郡市内の子どもたちが ICT 機器と適切に関われるよう、ぜひ情報モラル教育の実践を共に考えていきましょう。

（文責 高山 史）

★研修講座★

★研修講座★

★学校訪問★

★学校訪問★

